

高等学校学習評価Q&A

地理歴史科



教
学
一
如

教えることは 学ぶことである
学び続ける教職員に



鹿児島県総合教育センター

本資料においては、以下の資料について、それぞれ略称を用いることとします。

「学習指導要領解説」：高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説地理歴史編 文部科学省

「改善等通知」：「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」平成 31 年 3 月 29 日 初等中等教育局長通知

「参考資料」：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校地理歴史】文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

「学習評価のハンドブック」：学習評価の在り方ハンドブック（高等学校編）令和元年 6 月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

「指導資料」：鹿児島県総合教育センターが学校における課題や教科等の指導に関する今日的課題などについて研究した成果をまとめた資料

高等学校学習評価Q & Aについて

平成30年3月に公示された学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価について、基本的な考え方や高等学校の教科等別に評価規準の作成のポイントをまとめています。

高等学校学習評価Q&Aは、「指導と評価の一体化」について、先生方に分かりやすくガイドするために、以下のような工夫をしています。

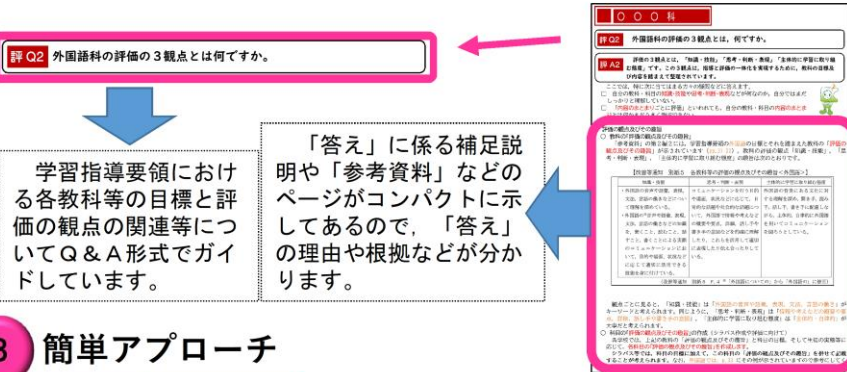


1 大事なポイントをガイド

学習指導要領解説を踏まえ、「参考資料」に基づいて作成しているので、各教科等の学習評価を行う上で大事なポイントが分かります。

2 Q&A

先生方が理解したり、自己点検したりできるように、各教科等の目標や単元（題材）の目標に照らした評価規準の作成の手順や評価における留意点、キーワードを示すなど、重要なポイントを焦点化しています。



3 簡単アプローチ

教科等ごとに必要な部分だけでも印刷・ダウンロードできます。「指導と評価の一体化」を図り、生徒の資質・能力の確実な育成に資するために、日々の授業改善や評価の改善に役立ててください。

※ 本資料では、ページ数のみが書かれている時には、「参考資料」の該当するページを意味しています。

目 次

評Q1	高等学校における学習評価の改善・充実に向けて、ポイントになるのはどのようなことですか。	1
評Q2	地理歴史科の評価の3観点とは、何ですか。	2
評Q3	地理歴史科の評価の進め方はどのようにすればよいですか。	5
評Q4	評価をする際には、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。	9

地理歴史科(共通)

評 Q1

高等学校における学習評価の改善・充実に向けて、ポイントになるのはどのようなことですか。

評 A1

学習指導要領の目標及び内容が、資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科等の評価の観点「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理され、それに伴い観点別学習状況の評価の考え方も変わりました。

教師が生徒の学習状況を的確に捉え、授業改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするために「学習評価の在り方」が極めて重要です。以下に具体的なポイントについて示します。

学習評価の改善・充実に向けたチェックポイント（□にチェックを入れてみましょう。）

- 学習評価は何のために行うものなのかを理解している。
- 「改善等通知」で示された学習評価の改善の基本的な方向性を理解している。
- 指導要録の「各教科・科目等の学習の記録」に、観点別学習状況の記載欄が設けられたことを理解している。
- 観点別学習状況の評価の観点が3観点到整理して示されたこと、また、それぞれの観点で評価する内容を理解している。
- 観点別学習状況の評価と評定の両方について、目標に準拠した評価として実施することを理解している。
- 評定については、観点別学習状況の評価がその基本的な要素となることを理解している。
- 評価の総括の考え方や方法について、教師間で共通理解を図り、生徒及び保護者に十分説明し理解を得る準備ができています。
- 観点別学習状況の評価や評定を的確に行うために取り組むべきことを理解している。
- 指導と評価の一体化を実現することや観点別学習状況の評価の充実と質の向上を図ることの重要性について理解している。
- 生徒にこれからの時代に求められる資質・能力を確実に育成するために、授業改善及び学習評価の改善・充実に向けて、主体的に実践と探究を進めていこうとしている。

学習評価の改善・充実に向けて、より理解を深めるために、以下の「指導資料」で御確認ください。

「指導資料」 令和2年10月発行
学習評価 第1号「高等学校に
おける学習評価の改善・充実
に向けて」



<https://bit.ly/3PzmJAV>

【学習評価第1号】

「指導資料」 令和3年10月発行
学習評価 第2号「高等学校に
おける学習評価の改善・充実
に向けてⅡ」



<https://bit.ly/3LI9kDn>

【学習評価第2号】

併せて以下の動画（30分）の解説、パワーポイント資料等も御活用ください。

鹿児島県総合教育センターWeb ページ
「教育資料」内の「学習評価」の
学習評価の基本的な考え方
高等学校 学習評価について



<https://bit.ly/3lvrBtf>

「指導と評価の一体化」のため
の学習評価に関する参考資料
第1編 総説



【国立教育政策研究所教育課程研究センター】

<https://bit.ly/3ktMiFi>

地理歴史科

評 Q2 地理歴史科の評価の3観点とは、何ですか。

評 A2 評価の3観点とは、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」です。この3観点は、「指導と評価の一体化」を実現するために、教科の目標及び内容を踏まえて整理されています

ここでは、特に次の疑問などに答えます。

- 地理歴史科の**知識・技能**や**思考・判断・表現**とは、どういうものだろうか。
- 「**内容のまとめ**りごとに評価」するための地理歴史科の**内容のまとめ**りとはどのようなものだろうか。



1 評価の観点及びその趣旨

○ 教科の「評価の観点及びその趣旨」

「参考資料」の第2編2には、学習指導要領の地理歴史科の目標とそれを踏まえた教科の「**評価の観点及びその趣旨**」が示されています（p.30）。教科の評価の観点「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の趣旨は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理や歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

観点ごとに見ると、「知識・技能」のうち、知識については、個別的事実的な知識のみでなく、現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開を理解している状況の評価することが大切です。

「思考・判断・表現」におけるポイントは次の三つです。第一に「地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連」を考察、構想すること、第二に「概念などを活用して」考察、構想すること、第三に「多角的・多面的に」考察・構想することです。特に、「概念などを活用して」考察、構想することについては、「社会的な見方・考え方」を働かせることに深く関わります。したがって、課題を追究したり解決したりする際に、適切な概念等に着目して考察したり、構想したり、その過程や結果を表現する学習過程を適切に設定し、その実現状況の評価することが大切です。

「主体的に学習に取り組む態度」については、地理歴史科の目標、特に「学びに向かう力、人間性等」に関わるねらいを踏まえ、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に解決しようとしている状況の評価します。

○ 科目の「評価の観点及びその趣旨」の作成（シラバス作成や評価に向けて）

各学校では、上記の教科の「評価の観点及びその趣旨」と科目の目標、そして生徒の実態等にに応じて、**各科目の「評価の観点及びその趣旨」を作成します。**

シラバス等では、科目の目標に加えて、この科目の「評価の観点及びその趣旨」を併せて記載することが考えられます。

なお、地理歴史科では、p.31にその例が示されていますので参考にしてください。

2 「内容のまとめり」

1で示した評価の3観点は、「内容のまとめり」ごとに評価します。「内容のまとめり」とは、「学習指導要領に示す各教科等の「第2款 各科目」における各科目の「1 目標」及び「2 内容」の項目等をそのまとめりごとに細分化したり整理したりしたもの」とされています（第1編第2章のpp.15-16参照）。

地理歴史科の各科目のうち、地理領域科目については「学習指導要領地理歴史編」の各中項目の記載事項、歴史領域科目については学習指導要領の各大項目の記載事項を基に、それぞれ「内容のまとめり」として作成されています。

第1 地理総合	
A 地図や地理情報システムで捉える現代世界	(1) 地図や地理情報システムと現代世界
B 国際理解と国際協力	(1) 生活文化の多様性と国際理解
B 国際理解と国際協力	(2) 地球的課題と国際協力
C 持続可能な地域づくりと私たち	(1) 自然環境と防災
C 持続可能な地域づくりと私たち	(2) 生活圏の調査と地域の展望
第2 地理探究	
A 現代世界の系統地理的考察	(1) 自然環境
A 現代世界の系統地理的考察	(2) 資源, 産業
A 現代世界の系統地理的考察	(3) 交通・通信, 観光
A 現代世界の系統地理的考察	(4) 人口, 都市・村落
A 現代世界の系統地理的考察	(5) 生活文化, 民族・宗教
B 現代世界の地誌的考察	(1) 現代世界の地域区分
B 現代世界の地誌的考察	(2) 現代世界の諸地域
C 現代世界におけるこれからの日本の国土像	(1) 持続可能な国土像の探究
第3 歴史総合	
A 歴史の扉	
B 近代化と私たち	
C 国際秩序の変化や大衆化と私たち	
D グローバル化と私たち	
第4 日本史探究	
A 原始・古代の日本と東アジア	
B 中世の日本と世界	
C 近世の日本と世界	
D 近現代の地域・日本と世界	
第5 世界史探究	
A 世界史へのまなざし	
B 諸地域の歴史的特質の形成	
C 諸地域の交流・再編	
D 諸地域の結合・変容	
E 地球世界の課題	

「参考資料」には、内容のまとまりについて、簡潔に次の3点が示されています。それぞれ参照してください。特に2番目のポイントについては、観点ごとにその留意点が書かれているので参考になります。また、各科目の留意事項も示されているので、併せて確認できます。

なお、「巻末資料」の pp.153-175 には、高等学校地理歴史科における「内容のまとまりごとの評価規準（例）」が科目ごとに示されているので参考にしてください。

- 「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係（第2編2①（p.32））
- 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際のポイント（第2編2②（1）（pp.33-34））
- 「内容のまとまりごとの評価規準（例）」（第2編2②（2）（pp.34-36））

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
第2編 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の手順

【国立教育政策研究所教育課程センター】

<https://bit.ly/3MIDMOJ>



地理歴史科

評 Q3

地理歴史科の評価の進め方はどのようにすればよいですか。

評 A3

地理歴史科における評価の進め方は、「参考資料」第3編第1章1（p.39）に次のように示されています。

- 1 単元の目標を作成する。
- 2 単元の評価規準を作成する。
- 3 「指導と評価の計画」を作成する。
- 4 授業を行う。
- 5 観点ごとに総括する。



【第3編第1章～】

<https://bit.ly/3LAfre3>

ここはよく理解する必要があるので、ぜひ「参考資料」の冊子又は二次元コードにアクセスして直接参照してください。

ここでは、次に当てはまる先生方の疑問や要望などに答えます。

- 単元の評価規準の設定から評価の総括までの流れなど、「参考資料」の事例を参考にしたいが、何がどこに書いてあるか分からない。
- 評価の場面は、授業の観察、ペーパーテスト、プレゼンテーション等があるが、それぞれの場面での3観点を評価する方法や課題の設定の工夫など、まだしっかりと理解していない。
- 「指導と評価の計画」を学年で共通理解したり、学習指導案を作成したりするために、「参考資料」の事例を参考にしたい。



1 単元の評価規準の作成

「参考資料」第3編第1章2（pp.40-42）は「単元の評価規準の作成のポイント」です。単元ごとの目標及び評価規準の設定方法が書かれています。

知識・技能	知識については、社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計することが求められ、技能については、「解説」中に「参考資料2 社会的事象等について調べまとめる技能」として、身に付けるべき技能の例を整理したところである。 これらのことを踏まえれば、単元の目標においても、その評価規準においても、細かな事象を網羅して求めることのないよう留意することが必要である。
思考・判断・表現	学習指導要領及び「解説」に示された、科目等の特質に応じた視点の例や、視点を生かした考察や構想に向かう「主題」や「問い」の例などを踏まえ、各単元において、それぞれの「見方・考え方」を視野に、具体的な「視点」等を組み込んだ評価規準を設定することが重要である。
主体的に学習に取り組む態度	現実の社会的事象を扱うことのできる地理歴史科ならではの「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」が必要である。 この教科の特性等を踏まえつつ、ある程度長い区切りの中で評価することが考えられ、単元を越えて評価規準を設定することも考えられる。

地理歴史科においては、原則として「内容のまとまり」ごとに作成した評価規準を基に、各科目の項目構成の特色を踏まえた上で、「単元の評価規準」を作成することになります。

ただし、地理領域科目については、「内容のまとまり」である中項目を分割し、小単元を設定して評価規準を作成する場合や、複数の中項目を一つの大きな「単元」として評価規準を作成する場

合が考えられること、歴史領域科目では、大項目が一つの大きな「単元」としてのまとまりをもっており、評価規準についても、「内容のまとまり」＝「単元」として、「単元の評価規準」を作成し、その下にある中項目や小項目を小単元として設定していくことが大切であることに留意する必要があります。

2 事例について

「参考資料」の事例には、全教科を通じて次のような特徴があります。

- 単元に応じた評価規準の設定から評価の総括までとともに、生徒の学習改善及び教師の指導改善までの一連の流れを示している。
- 観点別学習状況について評価する時期や場面の精選について示している。
- 評価方法の工夫を示している。

○ 地理歴史科の事例の特徴

地理歴史科では、事例は全部で12例示されています。「参考資料」第3編第2章2 (p.44)にまとめられていますので、参照してください。以下は、地理歴史科の事例の特徴です。

- 「評定のための資料として用いる評価（記録に残す評価）」を「評価規準」として○印で示しており、主に「内容のまとまり」や、それを踏まえた単元のまとめなど、場면을精選して行うよう表されています。
- 「評定のための資料としては用いないものの日常の学習改善につなげる評価（指導に生かす評価）」を●印で表し、机間指導や作業状況の確認やその支援などを含めた、生徒の学習状況を確認する場面を示しています。
- 「指導に生かす評価」について、参考例を記載するに留められていますが、授業中における生徒の反応に対して常時心掛けるべき「指導」でもあり、「記録に残す評価」に至るまでの指導の在り方として、「指導と評価の一体化」の趣旨に留意することが必要です。

○ 各事例の特徴

事例	科目	キーワード	備考
1	地理総合	単元を見通した評価の総括の仕方	三つの観点の評価を行う場面のバランスのよい設定や評価の総括の考え方について示されている。
2	地理総合	思考力等を問うペーパーテストを用いた評価の工夫	ペーパーテストの工夫改善に向けた例や思考力等を問う問題の在り方、問題の活用例としての誤答分析の仕方などに加え、問題の改善（ブラッシュアップ）について示されている。
3	地理総合	ワークシートを用いた「技能」，「主体的に学習に取り組む態度」の評価	「技能」，「主体的に学習に取り組む態度」の育成と評価に資するワークシートの工夫について示されている。
4	地理探究	内容のまとまり（中項目）を分割した評価，総合した評価	中項目を分割し、小単元を設定して評価規準を作成する場合や、複数の中項目を一つの大きな「単元」として評価規準を作成する場合の評価の考え方について示されている。
5	地理探究	構想，探究場面における各観点の評価	「主体的に学習に取り組む態度」を中心に、探究活動における観点別評価の在り方について示されている。
6	歴史総合	「内容のまとまり」を踏まえた指導計画と評価計画	大項目を大きな単元構成とした学習指導と、それに沿った評価の在り方について示されている。
7	歴史総合	「知識・技能」，「思考・判断・表現」の評価の工夫	「知識・技能」と「思考・判断・表現」それぞれの評価規準及び評価方法について示されている。

8	歴史総合	「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫	「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準及び評価方法について示されている。
9	日本史探究	「内容のまとまり」を踏まえた指導計画と評価計画	学習の特徴に応じた評価の計画について事例を示し、日本史探究の基本的な指導と評価の構造について示されている。
10	日本史探究	「思考・判断・表現」の評価の工夫	「思考・判断・表現」の評価について、その指導と評価の計画を示し、ワークシートなどを活用した評価の工夫について示されている。
11	世界史探究	「内容のまとまり」を踏まえた小単元の評価の位置付け	「学習改善につなげる評価」の方法を中心に具体的な評価の在り方について示すことと併せて、単元がその後どのように展開するかを示すものとして、大項目全体の指導と評価の計画について示されている。
12	世界史探究	探究する活動における評価の工夫	探究の指導と評価の計画を示すとともに、生徒の探究の過程における教師の関わり方や評価の在り方などについて具体的に示されている。

3 総括の方法

総括については、単元などの総括と学期末における総括が考えられます。以下を参照してください。

(1) 単元などの総括

単元などの総括については、事例1の pp. 48-55 に地理総合の単元名「地図や地理情報システムと現代社会」の各観点の評価を総括する際の例が示されています。

事項ごとの評価	単元の目標					
	知1	知2	技能	思1	思2	態度
	ABC等	ABC等	ABC等	ABC等	ABC等	ABC
「知識」の総括	ABC等		ABC等	ABC		/
各観点の総括	「知識・技能」の総括 → ABC			ABC		ABC

なお、地理領域科目では、基本的には中項目を単元とすると考えられますが、中項目を分割し小単元を設定したり、複数の中項目を一つの大きな単元としたりする場合も考えられます。いずれの場合も「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえて単元の評価規準を作成し、学習をデザインすることが大切です。

また、歴史領域科目は大項目が「内容のまとまり」として一体的な構成をもつため、20時間を超える大きな単元となることが想定されます。そのため、小単元を設定し、適宜、生徒の学習状況を評価することが大切です。

(2) 学年末等の観点別学習状況の評価の総括

単元等で評価を行った後に、学期末や学年末等に総括する方法が「参考資料」第1編第2章1(5) (pp. 17-18) に書かれています。評価結果のA, B, Cの数を基に総括する場合と評価結果のA, B, Cを数値に置き換えて総括する場合です。さらに、「参考資料」第1編第2章1(6)には、観点別学習状況の評価を評定へ総括する方法が書かれています(p. 18)。こちらも併せてお読みください。

4 「指導と評価の一体化」の観点を考慮した指導計画について

「指導と評価の一体化」のためには、「指導と評価の計画」の作成が大切です。それが学習指導案作成にもつながります。その際には、次の点に留意し、作成してください。

(1) 単元の目標と評価規準を設定して、単元の指導計画や本時の指導計画を作成する。

「指導と評価の一体化」の観点から、評価規準で示したことについて、生徒が学ぶ機会を設けることがとても大切です。目標について、単元のどの場面で生徒が学ぶのかを明らかにします。

「指導と評価の計画」は、「参考資料」にある事例の形式（pp.49-50など）を参照しましょう。

(2) 観点別学習状況の評価につながる「記録に残す評価」は、全員を対象に行う。

評価には、生徒の目標の達成状況を単元途中で確認する「指導に生かす評価」と主に単元（題材）の後半で行う観点別学習状況の評価のための「記録に残す評価」があります。単元目標は単元が終わるまでに達成できればよいので、「記録に残す評価」については、単元の後半に主な評価場面を設けることが一般的です。また、「記録に残す評価」は、全員に対して一斉に行うのが原則です。全員に行うことができない場合には、「記録に残す評価」を行うことは通常はありません。この「記録に残す評価」をいつ、どの場面で行うか、「指導と評価の計画」の中に明記しましょう。

(3) 具体的な目標の達成状況の例を示す。

単元の最初に目標を示す際には、生徒の達成状況の例を具体的に示したいものです。例えば、生徒の作品例や実際に活動を行っている様子（できれば評価Aの生徒のものと評価Bの生徒のもの）を示すと、生徒は目標とする達成状況までの過程のイメージを得やすくなります。また、教師にとっては、個々の生徒の学習の達成状況を把握しやすくなるので、生徒一人一人への個別の指導につなげることができます。これは、「学習評価のハンドブック」に示されている「教師の指導改善につながるものにしていく」こととなります。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

第3編第2章 学習評価に関する事例について

【国立教育政策研究所教育課程センター】

<https://bit.ly/39wcWey>



地理歴史科(共通)

評 Q4 評価をする際には、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。

評 A4 学習評価については、これまで様々な課題が指摘されてきました。その改善のために、「指導と評価の計画」を作成し、観点別学習状況評価を計画的に進める必要があります。

高等学校及び特別支援学校高等部においては、令和4年度以降に入学する生徒から、観点別学習状況の評価を指導要録に記載することになるなど、各学校においては学習評価の改善・充実が喫緊の課題となっています。現在、当センターにも以下のような学習評価に関する様々な質問が寄せられているところです。

- 自分の担当する教科の3観点がよく分からず不安です。まず何から始めればよいですか。
- 定期考査等のペーパーテストでは、「知識・技能」，「思考・判断・表現」のどちらを測る問題か，明示して出題すべきでしょうか。
- 「主体的に学習に取り組む態度」のみを取り出して評価できますか。
- これまで「平常点」として評価していたものをそのまま「主体的に学習に取り組む態度」として評価してよいですか。
- 課題の提出状況や小テストの結果は「主体的に学習に取り組む態度」で評価しないのですか。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価が「知識・技能」や「思考・判断・表現」の評価と大きな差があることはありますか。
- これまでと同様に「評点」を用いて評定を算出してもよいですか。
- 観点別学習状況の評価「A B B」などを学年末に「評定」へ総括する際に「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」を 1:1:1 ではなく1:2:1とするなど3観点で軽重を付けてもよいですか。
- 特別活動，総合的な探究の時間の評価はどのようにすればよいですか。
- 指導要録だけでなく通知表にも観点別学習状況を記載した方がよいですか。
- 観点別学習状況の評価を基にした評定について，生徒や保護者に配布する文書例はありますか。

当センターでは、これらの質問に対する回答を「指導資料」としてまとめています。次の「指導資料」を参照し、学習評価に関して、より理解を深めてください。

「指導資料」 令和3年10月発行
学習評価 第3号
「高等学校における学習評価の改善・充実に向けてⅢ
—よくある質問から—」
<https://bit.ly/3wF7UUZ>



【学習評価第3号】